

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200679		
法人名	特定非営利活動法人ハッピーネス福祉会		
事業所名	グループホーム琴の海		
所在地	長崎県東彼杵郡東彼杵町蔵本郷884-1		
自己評価作成日	令和3年1月27日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

室内は、杉の木を使用した木造平屋作りの建物で、リビングからは、みかん畑や山が見渡せる長閑な場所にあります。中庭は、季節の木や花が植栽された明るく開放的な居室空間である。また、キッチンからリビングの様子が見渡せ、利用者とのコミュニケーションも図っている。定期的に避難訓練・災害訓練を実施し、地域住民との連携体制ができ、安心安全な暮らしに努めている。ホームでは各種イベントを開催し、多くの人と交流の機会を設け、利用者は充実した豊かな生活を送られている。その時のイベントの様子を写真に収め、ホーム内に掲示し、来所頂いた方にも観覧して頂いている。職員は家族や地域の方がいつでも気軽に来て頂けるような雰囲気作りも心掛けています。また職員は、現状に満足することなく意欲的に資格取得や技術の向上に向けて努力している。日々、皆様の健康維持に努め、脳の活性化の為に学習療法(読み・書き・計算)を取り入れ、職員と利用者は毎日进行をいきいきと楽しく過ごしている。御家族がホームで看取りを望まれば、利用者や家族が最後の時を共に過ごしていただけるような場所も提供し、御家族の精神的・肉体的な緩和ケアも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは長閑な場所に立地し、ホーム長の自宅が近隣にあることで地域からの様々な情報を得やすい。ホーム共用空間には熱帯魚の水槽や季節の花を生けることでリラックスできる空間づくりに配慮するとともに、入居者毎の学習療法による目標と本人の意向を掲示することで職員がいつでも確認できるよう工夫している。地域に根付いた開放的なホームで、笑いヨガや日舞・フラダンスなどのボランティアのほか、干支の贈り物や野菜をもらったりするなど日頃から地域との関係を築いている。今年度はコロナ禍により中高生の職場体験や保育園児との交流、近隣神社で開催される浮立(ふりゅう)の見学は中止したが、毎月訪問する地域のボランティアと密にならないよう配慮しながら一緒に散歩するなど地域との交流を継続している。ホームで行う各種行事に家族が参加できないことが多くあったが、その様子を動画で配信したり、Zoomを活用して親族の結婚式に参加したり、窓越しに家族と面会してもらうなど様々な工夫を凝らしながら家族との関係継続に取り組んでいる。毎月発行する家族向けの報告書にはバイタルサインや食事、保清、排泄、睡眠、日常生活・レクリエーション、学習療法(頭の体操)、介護計画といった入居者の状況を写真を添えて詳細に伝えることで、家族の安心感に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム琴の海

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	琴の海の理念「共に喜び共に悲しむ」を行動に理念に利用者の能力に応じた活動(料理の下準備、洗濯干し・たたみ等)を行なってもらっている。また、利用者家族の了解のもと、利用者の住まい周辺の方々との面会の受け入れや地域の人たちを夏祭りやクリスマス会などの行事に招いている。	ホームの理念を「共に喜び共に悲しむ」と掲げ、共用空間の職員が目につく場所に掲示している。職員は入居者がホームでその人らしく生活が送れるよう支援に努めている。日々の入居者支援を通じて職員へ理念が深く浸透しており、理念に沿った行動ができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開放的な運営を行えるように、地域の人を年間行事に招いている。また、毎日利用者と一緒に琴の海周辺へ散歩に出かけ、地域との交流を図っている。地域保育園の園児を招いて、お遊戯や歌を披露してもらっている。	ホーム長の自宅が近隣にあることで地域からの様々な情報が得やすい。今年度はコロナ禍により中高生の職場体験や保育園児との交流は中止したが、毎月訪問する地域のボランティアと密にならないよう配慮しながら一緒に散歩するなど工夫し、地域との交流を続けている。徘徊等で入居者がホーム外に出た場合も地域と協力して確認できる体制を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、火災時の避難訓練、ホームでの行事への参加を通じて、ホームのあり方や認知症の方への支援方法などを理解して頂けるよう努めている。相談等があれば、その都度応じて不安の緩和に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事の報告、事業所内の問題点や今後のケアや行事の取り組みなどについて話し合っている。また、スタッフによる「介護職に就く前と就いた後の考えや気持ちの変化」について発表してもらい、それから感じとられることをヒントにスタッフの育成につなげている。	今年度の運営推進会議はコロナ禍により第1回と第3回は書面による会議とし、そのほかの会議については東彼杵町社会福祉協議会の会議室を利用し開催した。運営推進会議では行事報告や入居者状況、今後の予定のほか、事故等が発生した場合は事故報告も行い運営の透明性の確保に努めている。議事録はホームでの取り組み状況を分かりやすく記載し、家族にも情報を開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の利用状況の報告も毎月行なっている。また介護保険更新時にも連絡し確認を取り、地域包括支援センターや健康ほけん課と協力関係を築いている。	運営推進会議に行政の担当者や地域包括支援センター職員が参加し、密に情報交換を行い助言を得ている。生活保護を受けている方や成年後見制度利用している方にも配慮し、関係機関と連絡・相談しながら協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権を守るため身体拘束をしない方針でサービスを行なっている。玄関は施錠しないでアラームを設置しアラームがなるときは利用者に付き添っている。身体拘束が必要な場合は、本人・家族等への説明を行い同意を得ている。また、職員に外部の身体拘束に関する研修会に参加してもらったり、琴の海内で施設内研鑽をしたりして身体拘束の理解を深めている。	訪問調査日現在、身体拘束は実施しておらず、身体拘束のないケアを実践している。日中、玄関の施錠もなく開放的である。身体拘束適正化委員会は全職員が構成メンバーとなり3か月毎に開催するとともに、年6回身体拘束に関するテーマを決めて内部研修を企画し、事例検討やDVD等を活用することで正しい理解に繋げている。ホームでは身体拘束に関するマニュアルや指針、同意書を整備し、センサーマットの使用について家族に説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外で虐待防止の学習を行っている。利用者からつねられたり、叩かれたりする事がある時は、職員同士で相談し、悩みを共有している。そして、対応方法をみんなで話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスや勉強会を行い制度を理解している。以前入所していた利用者で成年後見制度を利用されていた。そのケースを参考に成年後見人との連携のあり方や、本人がよりよく生活されるような協力関係を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、法改正時の際は家族に説明し、了解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誕生会・夏祭り・クリスマス会等の行事に参加された時に、家族の方の意見が聞かれれば、カンファレンスを開き、職員一同で内容を検討し反映させている。また家族が来所された折りにもお話を聞き意見を反映させている。	コロナ禍のため、ホームでは入居者との面会について10分程度とし、居室には入室せず密にならない場所で行っており、感染状況によっては窓越しで行うこともあった。遠方の家族とはLINEなども利用できる。入居者一人ひとりの生活状況について担当職員を中心に把握し、月次報告書を郵送している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務の希望や人員等、職員の意見や提案を聞き反映させている。月1、2回のカンファレンスで、行事や誕生会のイベントについて話し合いを行い、意見を反映させている。お互いに意見を言い合える関係を築き利用者のサービス向上に繋げている。利用者の状況によっては、職員数を増やすなどの体制も強化している。	入居者への担当職員の配置のほか、栄養・歯科衛生・業務・学習療法・看護など、各職員が役割を持つことで入居支援へ具体的に活かしている。バイキング形式の食事をホーム内で行えるよう工夫したり、コロナ禍の中、楽しみごとや祝いごとが継続できるような規模を縮小して実施するなど、できないことではなくできることは何かを日々考え、職員意見をホームの運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や経験を活かした役割を持って仕事をしている。キャリアパス規程を設けている。職員の休憩時間の確保に努め、働きやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修も受講してもらっている。また施設では具体的なケースを用いて考える能力を養っている。係の役割分担を行い、責任のある役を経験年数や能力に合わせて与え、更なる進歩を促している。経験年数から資格取得を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に8回、グループホーム交流会を行い、専門職同士が集まり意見交換など行っている。事前に話し合うテーマを設定し、その事について各施設意見を述べている。また、その時知った良い所はホームに取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にケアマネ、家族から利用者の情報提供を受け事前に職員間で情報を共有している。結果、入所後、特に入所1週間は利用者の傍に寄り添い、または見守り利用者の理解に努めている。また、慣れ親しんだ家具の使用や携帯電話の所持の許可をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスに関して家族からの要望を聞き、可能な限り応えている。希望があれば、家族の寝泊り、病院受診を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の身体状況や精神状況を考慮して、受け入れを判断している。事前情報、入所後の状況からアセスメントし、利用者の日常生活がスムーズにいくよう支援に努めている。入所後、特に1週間は利用者の傍に寄り添い、出来ること、出来ないことを把握し職員間で情報を共有し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼間は出来るだけリビングで過ごして頂き、テレビを観たり、料理の下ごしらえやタオルたたみ等一緒に行い、共に支え合うようにしている。レクリエーションを共にし、喜び楽しみを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日を家族と共に祝っている。また、毎月生活を記録した報告書を家族に送っている。更に、ホームではイベントを行い、利用者、家族間の交流の場を設けている。そのことで、家族との関係がよりよくなるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で開催される彼岸茶市(5月)は、家族の同意のもと積極的に参加され、昔馴染みの物を見学したり、顔馴染みの人との会話を喜ばれている。敬老会やクリスマス会に来所される合唱団コスモス・東彼フラダンスの方々との交流は長年続いている。家族、知人の方が来所された時には話し合いやすい環境を整えるように努めている。学習療法のボランティアサポーターの方の支援も頂いている。令和2年は、コロナ禍で茶市は中止した。敬老会、クリスマス会は利用者スタッフで行った。	親族の結婚式にZoomを活用して入居者が参加したり、本人の信仰心に配慮し毎週日曜日に本人のスマートフォンを活用しリモート礼拝に参加できるようWi-Fi環境を整えるなど取り組んでいる。また、友人や知人との年賀状のやり取りや、贈り物が届いたらお礼状を送付するなど手紙等を通じた交流を支援し、学習療法にも組み込みながら馴染みの人や場との関係継続に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感情の変化を観察し、利用者同士が(新利用者には特に注意し)良い関係を保てるよう、食事時の位置・テレビを観る時の位置等気を配り支援に努めている。利用者同士の相性なども考慮し、席の配置をしている。喧嘩等の時は介入し、悪化防止に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方と連絡を取り、現在の状況を尋ねて必要に応じては相談や支援に努めている。退所後もホームにも来所しやすいよう関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で、外出や外泊等の要望や思いに対してすぐに対応している。電話を希望される方は、すぐに対応し思いを伝えることができている。家族からの飲食の差し入れについては制限していない。しかし家族からの差し入れ等、毎日居室内の状況は把握している。本人の確認のもと飲食物を預かることもある。	入居者本人の行動はもちろん、本人が発した言葉や独り言など介護記録に残し、職員間で共有しながらその方の思いや意向を汲み取るよう努めている。重度の認知症や難聴の方など思いや意向を直接伝えることが難しい方には表情や仕草から思いを汲み取り、家族からも情報を得ながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の利用者の状態を観察したり、家族から今までの介護ケアプラン及びケース記録・回想録等により、これまでの生活状況の把握に努めている。また自宅を訪問し、今までの暮らしぶりを見せていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を書き留め、状態の変化を把握している。またその時に職員がどう対応しているか日々ケース記録に記入し、状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療機関の意見を合わせた介護計画書を作成している。カンファレンスで、利用者の担当者が心身状態や活動等を話し合い、介護計画に反映させている。問題がある場合にはミニカンファレンスを開き話し合い現状に応じた介護計画を作成している。	日々の入居者への支援内容はケース記録に残すとともに、ケアカンファレンス時には入居者の担当職員が入居者の心身状態や活動状況などその方の情報を提供し、介護計画の立案に活かしている。介護計画は3か月毎に見直し、本人や家族の意向を反映した入居者の現状に即した内容で作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は日々の様子を介護記録に記入し、状態の変化等あればホワイトボードに変更等書き情報を共有している。状態の変化があれば、ホーム長や職員間で検討をし、必要があればカンファレンスを実施し話し合い、家族にも連絡を入れる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	経管栄養の状態の方や重度化された状態の方でも、医療との連携により受け入れ可能である。家族も共に支える姿勢で取り組んでいる。病院受診が必要と判断した場合、家族への連絡後、看護師は病院への支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学習療法(読み、書き、計算)の指導にボランティアで地域の方に来て頂き、利用者はいきいきとした表情で楽しく取り組まれている。毎年、日舞・コーラス・フラダンス、楽器の演奏にも来て頂き利用者は楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を聞き、担当医を決めている。月1回の内科往診、平成30年度から歯科往診を月2~4回行われている。事前に連絡を入れ、往診時スムーズにいこう医療側と連携をとっている。また急を要する時は受診もしくは往診依頼をその状態に応じて行っている。	同町で新型コロナウイルス感染者が発生したため内科医の訪問診療を休止していたが、現在は再開し、月1回の内科医、週1回の歯科医による訪問診療を行っている。医療機関を受診する際は職員が受診同行し、必要に応じて家族も受診に同行している。受診時は入居者の各種情報のほかに、万が一に備えてオムツも持参している。家族への受診の報告は面会時や月次報告により行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は介護職員からの情報、観察等により本人の健康管理を行っている。状態観察により主治医の診察が必要な時は病院受診し、治療を受けて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要となった場合は家族と連絡し、医師の状態説明を聞いて頂く。入院の準備はホームで行い、入院生活に支障がないよう配慮している。ホームでの本人の状況を病院関係者に説明し、本人及び病院関係者が困らないように説明している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明時や、利用者の状態が悪くなった場合にも、重度化対応看取り指針等の説明を行っている。家族の希望を受けホームでは、現在までに16名看取りを行った。	入居者や家族の希望に応じてホームで看取りができる体制を整えている。ホームでは看取りの指針や同意書を整備するとともに、パンフレットにも記載し家族及び入居者に説明している。また、ターミナルケアマニュアルを整備し、看取りが近づいた際は看護師を中心に研修や話し合いを重点的に行っている。現在、喀痰吸引研修を修了した職員は7名在籍しており、終末期には居室で家族が宿泊できるよう配慮し、家族ケアにも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故が発生した場合は、ホーム長に連絡し、利用者を安全・安楽な体位にし、初期対応を行うようにしている。事故対応マニュアルを頭に入れ、職員は落ち着いて対処できる様心掛けている。また心肺蘇生法の講習会に参加し、消防隊員指導の下、緊急時の対応を学ぶ。(抜き打ち訓練を行い、職員全員が合格するまで心肺蘇生法を身に付ける訓練を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災を想定して、年2回地域の方にも参加して頂き避難訓練を実施している。災害時対応マニュアルや防災マップ、避難場所を確認し危険区域を把握している。火災チェック表の確認を行い日々防災意識を持っている。水害に対しても町の災害対策に准じて毎年1回実施している。また災害時には消防団と速やかに連絡できるようにしている。(令和2年、7/6大雨による避難勧告が発令され、利用者・スタッフ全員避難した。7/6午後~7/7午後避難解除まで)	避難訓練にはホーム周辺の地域住民にも参加してもらい協力体制を築くほか、災害時対応マニュアル及び防災マップを整備し、職員に周知することで有事の際に備えている。消火器操作訓練は全職員が経験しており、災害時の職員役割分担も勤務帯で取り決めている。備蓄はリネン庫と台所床下に保管している。	ホームでは緊急時の持ち出し用として入居者一覧表を整備しているが、避難先でより入居者情報を把握しやすいよう、顔写真に加えて入居者の全身写真や介護保険・医療保険情報、かかりつけ医や既往症、薬情報等の情報を追加し、一つにまとめることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬を持って傾聴し言葉掛けや対応を行っている。また職員間でも勉強会を開くなどして言葉遣いや態度について意識し実践している。	ホームへ外部講師を招いて接遇マナー講習を実施したり、職員が講師役となって言葉の掛け方や接し方などについて研修会を行うなど研鑽している。職員は入居者を人生の先輩として馴れ合いになってしまわないよう留意し、言葉掛けなどで気になった場合は管理者が直接指導している。職員も含め入居者には名で呼ぶこととしている。入居者の希望に応じて同性介助を行ったり、入浴や排泄などの場面ではさりげなく目隠しを行うなど羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮等から御自分の思いを伝えられない方、耳の遠い方等、表情や態度などを見ながら、声掛け・ジェスチャーなど行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝られる時、休まれる時、起きられる時も状態や時間を見て本人に尋ねながら一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで服を選んで頂いたり、本人や家族の希望があれば、カット、ヘアカラーをしてその方らしい身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いている。女性の方には、必要に応じて化粧品(乳液・ヘアクリーム等)の購入も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事献立は、栄養士が一人ひとりの好みを考慮し、栄養バランスを考え季節の物を取り入れた献立を作成している。個々人に合った食器やスプーン類の素材や形にも配慮している。また一人ひとりの咀嚼、嚥下機能、歯の状態を考え食べやすい形態にし楽しく食事ができるように見た目も考え、摂取して頂くように努めている。料理の下ごしらえや食器拭き等の出来ることはして頂いている。	入居時に本人や家族へ嗜好調査を行っている。職員が週3回程度買い物に行き、旬の食材をもとに献立を立案しており、食事は朝昼晩全てホームで手づくりし提供している。食器は本人が使い慣れたもののほか、色・深さ・模様・重さ・素材・形など職員間で検討し支援している。コロナ禍前はホーム全体でハイキングやバイキングができる場所へ外食する機会を設けていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減、利用者の一般状態や体温上昇・外出後等の状況を考慮し食べる量、水分量など考えて支援している。また、必要に応じてサプリメント等も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指導の下、毎食後は舌ブラシ、スポンジ、歯ブラシ、歯間ブラシ、口腔ケアウェットシートを使用し口腔ケアを行っている。うがいにはお茶を使用し、口の殺菌・口臭予防に努めている。また歯磨きに、人体に害がないものを使用し、毎夜洗浄剤(歯科用義歯洗浄剤:デンチャークリーナー)で除菌している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレに誘導している。また、見守りできる環境を作っている。失敗された時は速やかに衣服を交換している。必要に応じて居室にポータブルトイレを設置し排泄の自立支援に努めている。リハビリパンツや紙おむつに変更する時は十分検討してから行う	ホームでは排泄チェック表を用いて入居者の排泄のリズムや時間帯を職員が把握し、タイミングを見計らって声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。本人の表情やしぐさを観察し、下剤などの服薬状況にも配慮しながら排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な食品、乳製品を毎日の献立に取り入れている。また、排便促しに効果があると言われる食品があれば提供し、効果があれば続けている。併せて運動や腹部マッサージも行っている。それでも改善されない時は薬を服用していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回以上入って頂き、その時の利用者の体調に合わせて入浴時間や、携わる職員数を変えて安全に楽しく入って頂けるようにしている。入浴日以外にも、病院受診や誕生会前、排泄等による汚染があれば臨機応変に対応している。	脱衣所はハロゲンヒーターを設置し、必要に応じて浴室も開放することでヒートショック等急激な温度変化に留意している。重度化した方も湯船に浸かれるよう職員2人体制の支援のほか、寝たきりの方でも入浴できるベッドを用いるなど配慮している。入浴を拒否する方には声の掛け方を工夫したり、時間帯や曜日を変えるなど柔軟に対応している。時季に応じてゆず湯や菖蒲湯を提供するなど入浴が楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は利用者の身体状況に応じてベッドやソファで休んで頂いている。テレビを見て過ごされる方には、座り心地、安楽を配慮している。睡眠に不安のある利用者で、眠剤服用の方は4名おられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員が薬を服用されている。手にのせたり、口の中まで入れたり、トロミをつけて利用者に合わせている。薬の目的・作用・副作用を把握し経過観察に努め、状況に変化があった時には看護師や主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る事を活かしたお手伝いをして頂いている。気分転換の為、週課表に沿ったレクリエーションやホーム週辺の散歩を楽しんで頂いている。また、年に1度は花見・茶市・バイキング・ハイキングにも出掛けている。ご要望がある方(食べたいもの:芋・みかん・おはぎ・混ぜ御飯等)は、その要望を叶えられるよう取り入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週1度は散歩に行けるようなスケジュールを組み実施している。何度も外に行きたい方があれば付き添い、車等からの危険を守るようにしている。利用者の希望があれば買い物に同伴したり、家族の希望があれば外出、外泊もされている。その他、年間行事の中の花見、茶市、バイキング・ハイキングや自転車ロードレースの応援、蔵本浮立の見学、地域の餅つきの見学にも出掛けている。	コロナ禍により大勢の人と接するような外出は自粛しているが、今月はホーム近隣の河川敷に桜の花見に行く計画を立てており、入居者によっては1日に2~3回ホーム周辺へ散歩に出掛けている。ホームでは訪問理美容を定期的に利用しており、本人の意向に応じて毛染めやパーマ等を利用できるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じてお金を持って頂いたり、お祭りや外出時には家族の了承を得て、職員がサポートする事で買い物を楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に出る事ができる利用者には話をしていたり、職員が手伝って利用者から電話する事もある。また家族に、時候の挨拶等ハガキで出せるようにも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、中庭の花々・生け花・飾り付けで季節を感じて頂いたり、音楽を流す事でリラックス出来る空間作りをしている。施設内は、生活空間の妨げになるような物を置かない事で利用者が安全で自立した生活が送られるように心掛けている。温湿計を設置することで意識して確認を行い、快適な温湿に努めている。	ホーム玄関に入ると理念を分かりやすく掲示している。共用空間は熱帯魚の水槽設置や季節の花を生けるなど、リラックスできる空間づくりに配慮している。また、入居者毎の学習療法による目標と本人の意向を掲示することで職員がいつでも確認できるよう工夫している。ホーム内は自然光が差し込み明るく、入居者は窓から中庭を眺めたりリビングから続くバルコニーからミカン畑を眺めながら外気浴を楽しむなど穏やかに過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の座席やソファの位置・高さ等は、利用者がくつろげるように配慮し工夫している。問題がある場合、ミニカンファレンスを開き即時に改善出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた愛着のある衣服・布団類を持って来て頂いている。誕生会の御家族の写真や手紙をいつでもご覧になられるようにして安全で明るい雰囲気になるように整理整頓を心掛けている。	居室への持ち込み品について特に制限は設けておらず、位牌や仏壇などのほかに宗教的な持ち込みも可能としている。居室は入居者の担当職員が普段から整理整頓を行い、月に1度は入念に清掃する日を設けている。家具の配置は動線に配慮するとともに、家族や友人の写真を飾ることで入居者それぞれの個性が窺える居室づくりができている。	日中、使用していないポータブルトイレを配置している居室が窺えた。通常は目隠し等を行っているとのことであったため、入居者本人の使い勝手や動線を考慮した上で、必要に応じて目隠し等を行うなどあらためて他人の目に触れないような方策を職員へ周知することが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態を考えて危険性のないように、椅子やベッド・ポータブルトイレの種類や高さ・位置を考えて身体拘束のないように工夫し、利用者の状態に変化があった時にはその都度話し合い変えるようにしている。		